

気仙沼の方言を広めるための お菓子の商品化は可能か

気仙沼高校 3410A班

I 序論

現状: 若者があまり方言を使っていない

↓
方言を後世に残したい

↓
若い人が触れやすいお菓子を利用

II 本論①

宮城教育大学 T准教授

方言を商品にして残っているのもの有るため、お菓子は有効だと思う。

市内のお菓子屋さん

お菓子に方言を広めるくらいの影響力があると思う。

本論② 商品案

① ゆず方言サンドクッキー



【地域の材料】
・大島のゆず
・小原木の卵
【工夫点】
・気仙沼の観光資源である星をモチーフにした点。
・地域の食材を使った点。



【パッケージ】
・箱に吹き出しを入れて方言言葉らしさを出した点。
・個包装のラッピングを透明にして星型が見えるようにした点。
・方言をシールにした点。



② ゆずのマールクッキー



【地域の食材】
・大島のゆず
・モーランドの牛乳
【工夫した点】
クッキーの中やクッキーの上などゆずをたくさん使用した



【パッケージ】
・ほやほやの顔の缶にしました。
・クッキーの袋にゆずのイラストの上に方言をかきました

③ 型抜きクッキー

〈お菓子〉



【工夫点】
・大島産のゆず使用
・小麦粉、卵、乳製品不使用
（アレルギーがあっても食べられる）
・クッキーの形を気仙沼の特産品にした

【材料】
・米粉
・片栗粉
・てんさい糖
・シロトニンク
・豆乳
・大島産ゆず

〈パッケージ〉

モチーフ: 気仙沼の大漁旗!



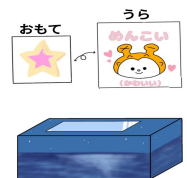
賞味期限
お菓子に押しつけた方言の意味

④ ほしくうべ



【地域の材料】
・大島のゆず
・モーランドの牛乳

【工夫点】
・大島のゆずを使用した点
・気仙沼の星をイメージして星形にした点



IV まとめ 課題

- ・費用について考える
- ・内容量など細かいところまで決める
- ・特徴をパッケージでアピールする
- ・ターゲットを明確にする

III 評価

- ①
- ・もっと方言をアピールできる方法があるかも
 - ・星型以外でもいけそう
 - ・普通の卵との違い

- ②
- ・ピューレの工夫が必要
 - ・普通の牛乳との違い
 - ・パッケージに費用がかかりすぎるかも

- ③
- ・時間がかかりそう
 - ・色々な大きさがある商品を何個ずつ包装するのか?

- ④
- ・飴の味を記載する
 - ・形を統一する
 - ・ゆずがどこに使われているか記載する

良 アレルギー 星空のイメージ 中身が見えるパッケージ

使いたい方言 めんこい たまげる いずい ば だ が ら
出典 本格派気仙沼弁より むつける あっぺとっぺ はまらいん はかほかする

参考文献

レシピURL
<https://cookpad.com/recipe/5585370>
<https://cookpad.com/recipe/4281597?view=classic>
<https://cookpad.com/recipe/2885320>

<https://cookpad.com/recipe/466151>
<https://cookpad.com/recipe/986131>
 本格派気仙沼弁 <http://www.oyama.tv/yota/kesennumaben.html>